

CLUB

at

先輩たちから中学生へ!

High school



神奈川県の高校はスポーツ、文科系ともにクラブ活動が盛んです。
皆さんの先輩たちが活躍している三浦半島エリアの高校クラブを紹介します。

湘南学院
高校

剣道部

2000年創部
9人(3年:2人・2年:5人・1年:2人)

技術・精神面で意識深める

湘南学院高校の武道場。ずらりと並んだ剣道部員たちの藍染めの剣道着姿が印象的。準備体操のあとは、



何より大切なのは礼儀作法



手拭いをきりりと締めて、面など防具を着けていきながら集中力を高めていく

掛け声をそろえて一斉に木刀を上下に振る。素振りには剣道の基本だ。足さばきも素早く、稽古は竹刀に持ち替えての打ち込み、切り返しと続いていく。取材日は、関東高校剣道大会県予選会を間近に控えていた。相手に向かっていく、「いやーっ」という掛け声にも気迫がこもる。

父親が指導している道場で小学2年から剣道を始めた主将・三代依更子さん(3年)は、久里浜中学(横須賀市立)で部活動へ。2年の石垣(ひらね)亜沙さん(同市立大津中学出身)、久富陽佳梨さん(横浜市立六角橋中学出身)も、ともに幼稚園時から剣道を始めたという経験者。同高では授業で男女とも剣道を学ぶことができ、同部には高校から経験者に交じ

り剣道を始めた生徒もいる。

「中学ではただやっついているという感じでそれほど強くなかった」という三代さんは、高校で顧問の荒谷直子先生から「自分の剣道とはどういうものか」を考えるよう指導されたという。技術・精神の両面において、剣道への意識を深めていったという。石垣さんや久富さんも県新人大会などで上位に食い込む成長ぶりだ。

競技通じ育つ感謝の気持ち

剣道は何より礼節を重んじるスポーツだ。団体戦で大将を務める石垣さんは「礼儀作法は社会人になつてからも役立つ。ありがとうという感謝の気持ちが育つ」と、中学生に向けて剣道の良さを強調する。三代さんが仲間、試合相手に関わらず「人との縁を大切にしている」と話すのも「感謝」の表れだろう。



左から石垣さん、三代さん、久富さん